

こんにちは、紳士淑女の皆様。

北京での IOSCO 会議へ参加させて頂いたことを本当に大変嬉しく思っています。そして、親切な招待と旧友に再開する機会を与えてくれた IOSCO と CSRC（中国证券监督管理委员会）に感謝します。

このような著名な企業間で行われる公開討論会に登場できることを光栄に思います。パネリストのうち、親友の河野正道氏が IFRS 財団モニタリング・ボードの議長を務めることを宣言しなければなりません。それにより、彼は私の上司となりますので、私は言葉に気を付けなければなりません！

私のことを知らない方々のために説明します。私はフランス証券取引員会、その後 AMF（フランス金融市場庁）の長官として 1995 年に規制当局クラブに入りました。私は IOSCO の理事会と専門委員会の議長を務め、いまだにこの素晴らしい組織の強い支援者です。この組織は、国際金融市場の規制と監督のための国際的な枠組みの構築に当たり大きな役割を果たしました。私は、IOSCO がガバナンスの大改革に着手したと理解しており、可視性と効率性の両方を強化するこの大胆な決定を祝福します。

実際に、私が IOSCO へ戻って来たのはこれで 3 度目になります。まず、最初に 1995 年から 2002 年まで務め、それから 2003 年に戻り、2008 年に退きました。そしてまたここにいます。私にとって、IOSCO は証券規制者のための「ホテル・カリフォルニア」のようなものです。「チェックアウトはできるが、決して離れることはできない！」

今日、私は IFRS 財団評議員会議長としての立場で話しています。著名な規制監督者で中央銀行総裁であり、我々の良き友、Tommaso Padoa Schioppa 氏は、15 か月前に帰らぬ人となりましたが、彼の後継者として、この立場に今年の初めから就いています。

私の短いコメントの中で、指摘したい 3 つのポイントがあります。

最初は、IOSCO は国際的な基準に向けた動きにおける「建国の父」の一人であり、達成したことについて多大な信用を受けるべきということです。

第二に、進歩の 10 年にもかかわらず、IFRS プロジェクトはまだ完成していないということです。我々の先には多くの課題がまだ残っており、のんびり構えているような余裕はありません。

第三に、このポイントがおそらく、国際会計基準の全面的な開発を IASB に決して委託しない聴衆の皆さんに最も関連すると思います。皆さんが、基準設定過程のライフサイクルを通して活発な参加国であることで引き続き緊密に関与し、我々がこれらの課題を克服するように手助けしてもらいたいです。我々はこれを独力では出来ません。

IOSCO が国際的な基準への動きを主導した

良いお知らせから始めましょう。よく見落とされている事実は、国際的な会計基準の背後にある勢いが、2000年5月のシドニーでの IOSCO 年次総会から始まったことです。その時、IOSCO のメンバーは、多国籍企業が各国で上場する際 IASB の前身である非常勤の国際会計基準委員会（IASC）の「コア・スタンダード」を利用することを承認しました。

その決定は、連鎖的な出来事を引き起こし、IASC を我々が今日知っている IFRS 財団評議員会と IASB に再編することになりました。

これらの出来事が生じたのには正当な理由があります。当時、我々は資本形成の実質的な変遷を目の当たりにしていました。国際連合によれば、1970年と2000年の間に、海外の直接投資は、世界中で50倍増加しています。取引の相手先が世界の反対側に座っている場合、財務報告に対する各国のアプローチは適切ではなかったように思えます。

各国規則は、資本の自由な移動に対する障害の役割を果たし、多国籍企業のコストを増加させ、規制逃れの機会を創出しました。

回答はもちろん、国際的に水準を引き上げ、高品質で、国際的に認められた単一セットの会計基準を開発することです。そして実際に、ビジョンのある発想は現実のものとなりました。

この10年間で、ほとんどの経済圏が国際会計基準を使用しない状態から、欧州連合加盟国を初めとした100か国以上における企業が IFRS の使用を要求又は容認される世界になりました。今年から、G20 構成国の3分の2以上で IFRS の使用が要求されています。ここ2年だけでも、ブラジル、カナダ、韓国、メキシコ、ロシアの全てが IFRS を完全かつ無修正で採用したことを見ました。フォーチュン・グローバル 500 のほとんどの企業が今、IFRS を使用して報告を行っています。したがって、国際的な基準設定主体が満たすべき3つの主な規準に IFRS 財団が適合していることは、今日明らかとなっています。

1. スタッフとボードメンバーの技能による技術的な信頼性
2. モニタリング・ボードの監視による政治的合法性

3. 我々のデュー・プロセスの優れた透明性、包括的な性質と効率性による説明責任

進行中の作業

これらの成果を祝福する一方で、多くの課題が残されていることも認識しなければなりません。大まかに言いますと、我々は、IFRS が国際的な基準となり、IASB が国際的な会計基準設定主体としての役割を確固たるものにするように、できることをしなければなりません。

これを最初の論点として取り上げましょう。IFRS は今、国際的な基準として本格化し、かつ普及していると支障なく言えると私は考えています。しかしながら、経済大国が完全に参加せずには、これらの基準の完全な便益は得られません。

金融危機は、この作業の緊急性を増加させる役目を果たしました。世界中の政策立案者は、財務報告における公平な競争条件を求めています。

そのことは、世界的な規制改革の不可欠な要素と見られており、繰り返し IASB の取り組みを支持し、国際的な会計基準への早期の移行を求めている G20 コミュニケが証言しています。

中国は、継続的なコンバージェンス過程を経て、実質的に財務報告基準を既に改革しており、自国基準と IFRS の間の差異は今、非常に小さくなっています。日本は既に一定の国内企業に対して IFRS の使用を容認する一方、インドは独自の IFRS 戦略を決定しています。

おそらく、最も待ち望まれている決定は、米国が IFRS を自国の財務報告体制に組み込むかどうか及びその方法です。献身的で実りあるコンバージェンスの努力を通して、この決定の基礎を作ったノーウォーク合意以来、IASB と FASB は 10 年を費やしました。私は、この重要なテーマに関する SEC の審議に対する肯定的な結論を楽しみに待っています。

全員を IFRS に参加させることが基本となりますが、それが物語の結末ではありません。基準はまた、エンドースされ、適用され、常に執行されなければなりません。投資家が、どの IFRS の方言を各国が適用するのかを心配しなければならない場合、我々は昔の各国基準へ引き返すでしょう。

このことは、国際的な会計基準設定主体としての IASB の将来の役割を私にもたらしめます。

評議員会は最近、組織の使命、ガバナンス、基準設定プロセス、資金調達を検討した広範な戦略レビューを完成させました。同時に、評議員会の報告先である IFRS 財団モニタリング・ボードは、制度面でのガバナンスのあり方について、独立したレビューを行いました。両報告書が今年 2 月に共同で公表されており、財務報告の将来の方向性に關心のある人は読む必要があります。

評議員会の戦略レビューは多くの優れた提言を行っています。私の考えでは、最も重要なことの 1 つで、既に取り上げた論点に最も関連することは、財務報告のサプライチェーンに関与する他者、すなわち、会計基準設定主体、監査・証券規制当局等との IASB の関係を正式化しようとすることです。これには 2 つの目的があります。

最初の目的は、世界中に、かつ無修正で適用可能な基準を創出する IASB の能力に関連します。IASB はこれを単独ではできません。財務報告に関する最善の考えを利用するだけでなく、確実に各国の規定を十分に考慮するためにも、世界中の基準設定主体と緊密に協力して作業を行う方法を見つける必要があります。

2 つ目の目的は、これらの基準の適用の首尾一貫性を改善することです。IASB は国際的な基準を開発する責任を与えられてきましたが、これらの基準のエンドース、適用又は執行方法について発言する権限は持っていません。

現場で適用する企業の貢献がなければ、基準の結果を容易に識別する能力も備わりません。

証券規制当局等との IASB の作業関係の柔軟な性質により、引き続き実質的な便益がもたらされます。しかしながら、戦略レビューは、国際的な会計基準の約束を達成しなければならない場合、さらに緊密で、より建設的な対話が要求されると結論付けています。

IOSCO の実施要請

ここで、IOSCO が登場します。演説の初めに言いましたように、IOSCO は国際的な会計基準への動きにおける「建国の父」の 1 つと考えることができます。証券規制当局と会計基準設定主体は生まれながらの協力者です。必ずしも賛成しないかもしれませんが、我々は無意識に投資家のことを思っています。我々は、テーブルの同じ側に座っていなければなりません。ところで、偶然にも、評議員会議長と IASB 議長で我々の良き友ハンス・フーガーホーストは、この組織とは大変親しく、そこで数年前と一緒に働いていました。

しかしながら、私は、IASB と IOSCO の間の関係が可能なほど十分に進展していないような印象を持っています。おそらく、これ自体に問題はありません。すなわち、評議員会と IASB が、ESMA 等の地域当局や、SEC やまさに CSRC 等の各国当局と非常に健全な対話を行うということです。

IOSCO は、IFRS 諮問会議の 2 議席と IFRS 解釈指針委員会のオブザーバーの地位を有し、しばしば我々の提案に応じてコメントレターを提出していることもまた事実です。

しかし、私にはより深く、より継続的な国際調整も要求されており、これは IOSCO のみが果たすことのできる役割であると思わざるを得ません。

評議員会の戦略レビューは、IOSCO とのより積極的な関係の枠組みを提供しています。IOSCO との改善された協力が相互に有益となる分野が多くあります。例えば、重要な基準の適用後レビューの共同作業、基準が世界中でどのように適用されているかについて IASB のプロジェクトチームへより全体的なフィードバックを提供することなどです。

我々は、協力を深めるために、各組織にとっての正しいメカニズムを見つける必要があります。これは、多くの方がよくご存知である Yael Almong が、最近任命された IFRS 財団の事務局長として、今後数か月内に取り組むことです。

冒頭の挨拶を要約しますと、IOSCO が 2000 年にシドニーで会合し、コア・スタンダードを承認してから、我々はとても長い道のりを来しました。その時から進歩は本当に目覚ましいのですが、IFRS プロジェクトはいまだに進行中です。この部屋にいる皆さんは、このプロジェクトの成功に間違いなく注目しており、G20 の国際的な会計基準の目標が実現可能となるように、皆さんが IOSCO レベルで我々の作業と再構築することを求めます。